

令和 5 年 6 月 10 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K13465

研究課題名（和文）K.ポランニーの社会経済思想と労働者教育協会

研究課題名（英文）Social and Economic Thought of K. Polanyi and WEA

研究代表者

笠井 高人（kasai, takato）

同志社大学・経済学部・准教授

研究者番号：90755422

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、グローバルな市民の役割を論じたカール・ポランニーの社会経済思想の源流を、イギリス時代に執筆された新資料を用いることで明らかにすることを目的とした。これは、これまで看過されていた『大転換』を執筆する以前のイギリス時代の労働者教育協会（WEA）での活躍に着目し、ポランニーの思想がどのような人的・歴史的要因によって変化・発展したのかを探求することで明らかにできる。さらに、そこからグローバルな市民が中心的役割を担うことで人間の生存が充足されるという福祉思想を探った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ポランニーのこれまで明らかにされてこなかった思想の一端を探究した。とりわけ、イギリス時代およびオーストリア時代は彼の思想の基礎を形作ったため、それを明らかにすることで、『大転換』などの著作では不明瞭であった彼の社会主義像をより鮮明化できる。今日、資本主義システムの発展とともに、それにうまく取り付けない人びとや社会が取りざたされる中で、ポランニーの思想は新たなオルタナティブを提示しうる。

研究成果の概要（英文）：This research aims to clarify Social and Economic Thought of K. Polanyi and WEA by using new record written in his England era. The study focuses on the activities of the Workers' Education Association (WEA) in England before he wrote The Great Transformation, which had been overlooked until now, and examines how his thoughts changed due to human and historical factors. Furthermore, we explored the welfare idea that human survival is fulfilled when global citizens play a central role.

研究分野：経済学史

キーワード：ポランニー

### 1. 研究開始当初の背景

在我が国では、喫緊の課題として福祉制度のあり方が議論される中で、地域的コミュニティや人々の紐帯を重視するカール・ポランニー (Karl Polanyi, 1886-1964) の思想が学問上のみならず、行政組織においても着目されている。一見して非合理的に映る経済行動がかえって社会や組織を安定させるというポランニーの視角は、人々の社会的な結びつきを如何に形成するのかという現今の主流派経済学理論が議論しきれていない福祉の課題に接合するため、看過できない。たとえば、制度の谷間にある人々に対する共助や非営利セクターなどが担う新しい公共領域に対し、市場や政府の補完的要素として肯定することに加え、それらが十全に機能するための理論的根拠を与える。また、その射程は一国内だけではなく、グローバルレベルでの達成を志向している。このポランニー理論は経済学が直面している課題を超越する議論の可能性を内包している。そのため、ポランニーの社会経済思想を探究する。

ポランニー思想の一端は主に『大転換』から読み取れるが、彼自身がどのように社会を認識・理解して自身の議論を完成させたのかは未だ明らかでない。時代を異にする思想家から現代に生きる我々が、その有用性を真に抽出するには、その思想が形成された時代背景や社会的文脈とともに理解することが必須であろう。では、彼の思想はどのような時代状況や社会的文脈を背景としており、どのような社会的・人的状況の中で生み出されたものなのだろうかという研究背景をもとにした。

また、研究史の問題として、ポランニーのイギリス時代やオーストリア＝ハンガリー時代がこれまで十分に考察されていなかったこともある。その原因として、彼の著作が極めて難解なことおよび言語での壁がある。主著『大転換』は英語で出版されたため、世界的に名声を博したが、それ以前の『オーストリアエコノミスト誌』での論考はドイツ語で発表されているので、この資料を十分に読み解ける研究者は多くない。また、オーストリア＝ハンガリー時代となると、マジヤール後で書かれているため、それを処理できる研究者は大変少ない。とりわけ、経済学をベースとして、これらの言語的困難を克服できる研究者は世界でも殆どいない。また、言語だけでなく、資料の整備も進んでいないことが、課題として挙げられる。『オーストリアエコノミスト誌』ですら、まとまった目録が存在しない。イギリス時代は特定の雑誌に寄稿したわけではないので、なおさら目録の作成は困難である。オーストリア＝ハンガリー時代はより一層困難である。このような研究背景をもとに、まずは、イギリス時代の資料を取り扱う。

### 2. 研究の目的

本研究は、グローバルな市民の役割を論じたカール・ポランニーの社会経済思想の源流を、イギリス時代に執筆された新資料を用いることで明らかにすることを目的とした。これは、これまで看過されていた『大転換』を執筆する以前のイギリス時代の労働者教育協会 (WEA) での活躍に着目し、ポランニーの思想がどのような人的・歴史的要因によって変化・発展したのかを探究することで明らかにできるものである。さらに、そこからグローバルな市民が中心的役割を担うことで人間の生存が充足されるという福祉思想を探ることを目的とする。市民が政治経済の中心となって社会を安定させることを望む新しいポランニー像とそのグローバルな市民社会論を提示することで、人々の社会的な結びつきを重視する福祉思想として、今日の社会に如何に貢献できるのかを検討した。

また、副次的な目的として、先にも記したように、資料整備の不完全性を改善することがある。カナダのコンコルディア大学にあるカール・ポランニー政治経済研究所の資料は、オンライン化されているが、ポランニーの生涯を通じた資料収集がされているわけではない。今回着目する WEA の資料も、紙媒体が存在するだけで、タイトルも一覧になっていない。そのような未整備の資料を整理することは、今後の自他の研究の発展・進展に資する。

### 3. 研究の方法

そこで本研究は、ポランニーのグローバルな福祉思想の源流を解明するために、既に蓄積された先行研究に、申請者が独自にイギリスで発見した労働者教育協会 (Workers Education Association、以下 WEA) に関する新資料を加えて分析する。そこから、これまで不明であった『大転換』執筆直前のポランニーの社会経済思想の形成過程を明らかにし、さらに市場の有用性を用いつつグローバルなレベルで人間の生存を確保しながら、積極的に自由を拡大する福祉思想の探求を目的とする。

研究当初は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、海外に渡航して新資料を集めるという予定していた研究計画通りに進めることは困難を極めた。そのため、研究計画を変更し、既刊の資料を八

手し、これまで十分には分析されてこなかった『オーストリアエコノミスト誌』におけるポランニー思想の発展を探究した。また、当初よりも人的ネットワークに着目し、ポランニーの親族とリわけ姉ラウラ、弟マイケル、妻イロナ、娘カリ、甥ジョンをはじめ、ポランニー一族との関連および一族の大戦前後の行動を研究することで、当時の時代性とともに知識人の亡命運動の一端を明らかにした。ポランニーはグローバルな市民社会を体感している。

#### 4. 研究成果

本研究で入手した資料はこれまでその存在が確認されながらも、整理が追い付かず放置されたままの論考が多数あるものである。ポランニーの論考についても、どのようなタイトルのものがどれほどあるのかといった一覧はまだない。また本雑誌に寄稿された論考のタイトル一覧も一部を除いてほとんど整理されていない状態である。そのため、これらの整理を進め、一覧を作成するだけでもアーカイブとしての価値は十分にある。

またポランニー家の知的な一族の関連も明らかにした。これは1990年代に整理がされて以降研究が進んでいなかった分野であったが、本調査によって今日まで続く知的なポランニー家系が明瞭となった。家系図の整理だけでなく、戦間期及びその後に彼らがどのように関わり亡命知識人として活躍したのかも検討できる。また、本研究によってポランニー家の解明というあらたな研究課題が浮上したことにより、他の研究者とのネットワークの形成が進んだ。とくに、それぞれの人物の研究者の他、移民の専門家、歴史・地域にかんする研究者などである。これらの研究者とのネットワークは今後ポランニー家を中心として、当時の知性史を重層的に描くことを可能にするであろう。これらの研究成果は今後、論文にまとめて投稿予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------